

第2章 景観づくりの基本理念と目標

1 基本理念

雑木林とせせらぎのある「住んでよし、訪れてよし」の美しく個性あるふるさと新座の景観づくりを進め、これを継承していきます。

景観は、その土地が受け継いできた伝統や文化、まちへの思いなど、地域で暮らし活動する市民が共有する価値感の表れであり、まちを愛する心の源となるものです。新座市は、首都近郊にありながら、武蔵野の面影を残す緑豊かな自然環境に恵まれ、生活利便性の高い住宅都市として発展してきましたが、今後も“雑木林とせせらぎのある”緑豊かな自然環境やまちの個性を守り、生かしながら、“住んでよし、訪れてよし”のふるさと新座の景観づくりを進めるとともに、市民・事業者、市が協働して、これを育て将来へと引き継いでいきます。

2 基本目標

- (1) 雑木林とせせらぎを生かしたふるさと景観をつくります。
- (2) 歴史と文化を伝える、風情ある景観をつくります。
- (3) まちの個性に彩られた、表情豊かな景観をつくります。
- (4) 観光やまち歩きを楽しめる景観をつくります。

(1) 雑木林とせせらぎを生かしたふるさと景観をつくります。

市の中央部を流れる野火止用水とその周辺の緑は、武蔵野の面影を残す“水と緑の回廊”として平林寺と並ぶ市の最も象徴的な存在です。また、市内に多く現存する雑木林や妙音沢緑地を始めとする本市の地形的特質である黒目川や柳瀬川の河岸段丘沿いの斜面林は、豊かな自然環境と緑の連続性を形成しており、市の眺望景観の特徴として重要です。

このような景観資源“雑木林とせせらぎ”を守り、生かしたふるさと景観づくりを進めます。

(2) 歴史と文化を伝える、風情ある景観をつくります。

本市には、市中央部に位置する古刹平林寺や野火止用水を始めとする様々な歴史的文化的文化資源があります。

これらの資源を今の暮らしに生かしながら、歴史と文化の薫り高い風情ある景観づくりを進めます。

(3) まちの個性に彩られた、表情豊かな景観をつくります。

本市には、多様な歴史を背景としたまち、個性あるまちなみなどが広がっています。そこには、住宅やビル、公園、道路など様々な建物、施設があり、これらがまとまって、住宅街、商店街といった様々な表情をつくっています。

賑わいのあるまち、趣のある落ち着いたまちなど、それぞれが持つ個性や機能を踏まえつつ、まちの個性に彩られた表情豊かな景観づくりを進めます。

(4) 観光やまち歩きを楽しめる景観をつくります。

観光都市にいざビジョンでは、市全域を丸ごと“屋根のない博物館（フィールドミュージアム）”として捉え、この“博物館”で市民や来訪者が様々な発見や体験ができるまちのイメージを創出することをコンセプトにしています。

新座の魅力を再発見し、そこに存在する観光資源や歴史的文化的文化資産を磨くことで、市民も来訪者も観光やまち歩きを楽しめる“住んでよし、訪れてよし”の景観づくりを進めます。